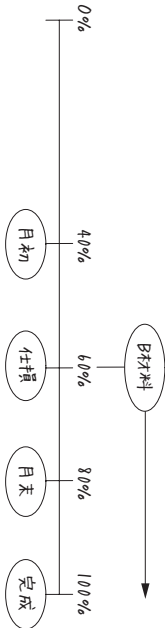


手順 1 仕損の発生点を考慮し、仕損費の負担関係を把握します。



手順 2 仕損を考慮しない生産データの整理 [問1]、[問2]

[問1]		[問2]	
④	40% A 200 B () 加 ()	⑤	2,000 × ⑤5,000 × ⑥ ()
⑤	2,100	⑥	80% A 300 × ⑦1,000 × ⑧ () B () × ⑨2,000 × ⑩ () 加 () × (⑪1,200 + ⑫800) × (⑬ () + ⑭ ())

手順 3 正常仕損費の算定と仕損を含む生産データの整理 [問3]、[問4]

1. 原価標準に組み込む正常仕損費：
{ ⑬1,000円 + (⑭1,200円 + ⑮800円) × () % } × 10% = () 円
仕損品1単位あたりの製造原価⑯ () 円

2. 生産データの整理

⑰		⑱	
40%	200	2,000	× ⑲ ()
A ()			
B ()			
加 ()			
⑳			
A ()		正・仕 60%	
B ()		A ()	
加 ()		B ()	
		加 ()	
		異・仕 60%	
		A ()	× ㉑ ()
		B ()	
		加 ()	
		㉒	80%
		A + 仕 300	× (㉓1,000 + ㉔ ())
		B ()	× ㉕2,000
		加 ()	× (㉖1,200 + ㉗800)

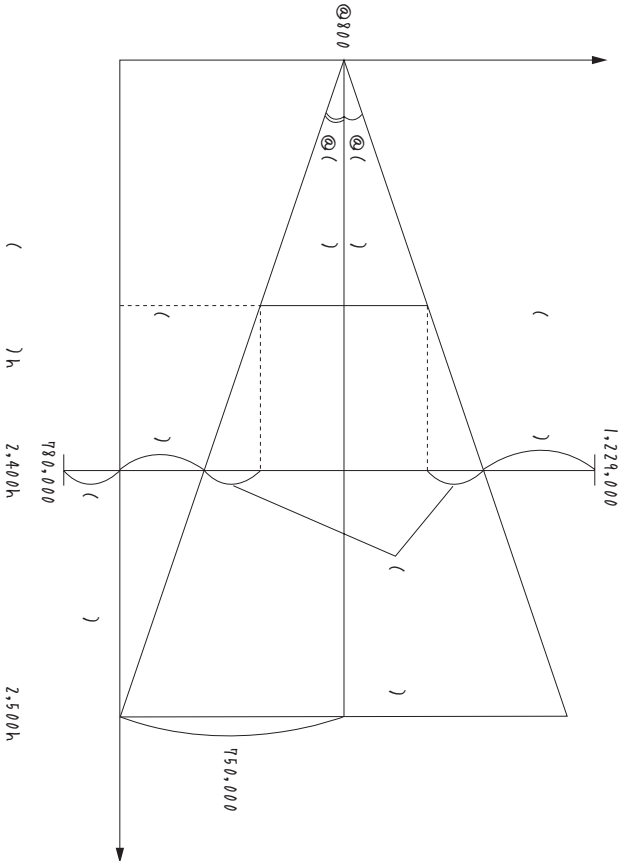
手順 4 標準原価差異の分析

1. A材		2. B材	
②260	③ ()	⑧980	⑨ ()
④250	⑤ ()	⑩1,000	⑪ ()
() kg		() 個	
	9,660kg		4,600個

3. 直労

②1,200円	③ ()
() h	2,400h

4. 数間



手順1

制約条件の確認と各製品の1個あたりの貢献利益を算定し、制約条件の貢献利益を算定します。〔問1〕

1. 制約条件の確認

- ①: $4,800 \text{個} \times 3 \text{kg} / \text{個} + 2,500 \text{個} \times 6 \text{kg} / \text{個} = (\quad) \text{kg} < 30,000 \text{kg}$
- ②: $4,800 \text{個} \times 1 \text{h} / \text{個} + 2,500 \text{個} \times 0.3 \text{h} / \text{個} = (\quad) \text{h} > 6,000 \text{h}$

2. 製品単位あたりの貢献利益

		A		B	
貢献利益の 制約条件の 貢献利益	販	③()	④()	販	⑤()
	安	⑥()	⑦()	安	⑧()
	貢	⑨()	⑩()	貢	⑪()
制約条件の		⑫()	⑬()	貢献利益	
⑭		⑮()	⑯()	⑰()	

手順2

製品Xの単位あたり貢献利益の算定と差額原価収益分析〔問2〕

1. 製品1個あたりの貢献利益

販 ()
Z () = ①() × 5kg
加(1) () = ②1,500 × ()h
貢 ③()

2. 差額原価収益分析

X ; 500個 × ④() = ()
() ; △()個 × ⑤() = ()
* 500個 × 1.2h ÷ ()h = △()個

手順3

製品Yの1個あたり貢献利益と制約条件の確認および最適プロダクト・ミックスを算定します。〔問3〕

1. 製品1個あたりの貢献利益

販 ()
甲 () = ⑥900 × ()kg
加(2) () = ⑦() × 3.5h
貢 ⑧()

2. 制約条件の確認

- 〔問3〕(2)325個のとき
- ①: ()個 × 3kg / 個 + ()個 × 6kg / 個 + 3251個 × 12kg / 個 = ()kg > 30,000kg

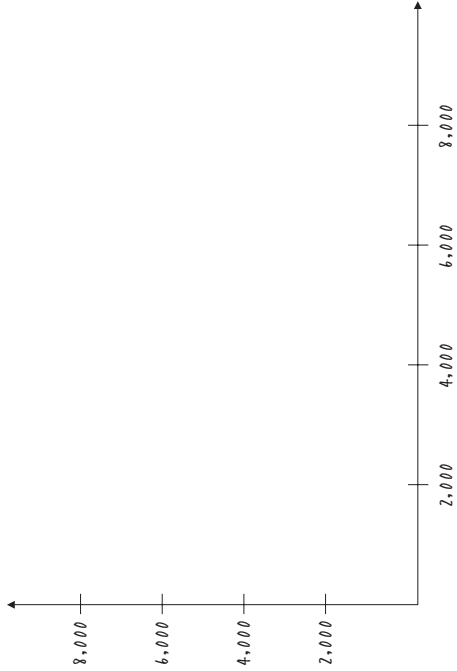
3. 最適プロダクト・ミックスの算定

(i) 計算条件などの数式化

Max Z = Max (()A + ()B)

① 甲: () + () ≤ ()
② h: () + () ≤ ()
③ A: () ≤ ()
④ B: () ≤ ()
⑤ A、B ≥ 0

(ii) 数式のグラフ化



タイムテーブルを作成します。〔問4〕

手順4

		当期末		1～4年目		5年目
CIF	旧売()	販	()	販	()	新売()
	売損()	販	()	新減()	②()	②()
COF	新取()	販	()	旧減()	旧売()	旧売()
	①()	販	()	②()	販	②()

手順 1 問題文をよく読む(問題の全体の流れを把握)

[問1]…定額配賦×単一基準⇨予定配賦×単一基準(⇨予定配賦×変動基準)

[問2]…相互配賦法(連立方程式法)の計算

[問3]…修繕サービスの内製・購入の意思決定

手順 2 会話文中の問いの前後の文章から、解答に必要な問題資料のデータを用いて計算する。[問1]

1. 定額×単一

① 当月：
$$\frac{20,800+(\quad)}{21,000+(\quad)}=\textcircled{a}(\quad)$$

∴ ② ()×20,800=()円

② 前月：
$$\frac{20,800+(\quad)}{20,800+(\quad)}=\textcircled{a}(\quad)$$

∴ ② ()×20,800=()円

2. 予定×単一

③ ③：
$$\frac{(\quad)}{21,000+(\quad)}=\textcircled{a}(\quad)$$

④ ④：
$$\frac{(\quad)}{(\quad)+960}=\textcircled{a}(\quad)$$

⑤ ③×()=()円

⑤ ③×()=()円

⑦ (⑤ + ⑤)-()=△()円(不利)

3. 受注

① ③：()円÷()円=③()

手順 3

補助部門の用役提供割合を整理し、連立方程式法により求めた補助部門費にもとづき、予定部門費配賦表に記入します。[問2]

動力部=X

修繕部=Y とおくと、

$$\begin{cases} X=(\quad)Y+(\quad) \\ Y=(\quad)X+(\quad) \end{cases}$$

↓

$$\begin{cases} X=(\quad) \\ Y=(\quad) \end{cases}$$

	A	B	⑥	⑤
	6,647,000	4,602,000	3,460,800	3,024,000
⑥	0.5X	()X	△X	()X
	()	()	△()	()
⑦	()Y	()Y	()Y	△Y
	()	()	()	△()
	()	()	0	0

上に用役提供割合を、下に配賦額を記入しましょう。

手順 4 下線部(B)から修繕部門に対する動力部門の供給分も差額原価となることに注意して計算を行う。[問3]

(1) (i) ③：()円

(ii) ③：
$$3,460,800 \times \frac{(\quad)}{(\quad)}=(\quad)$$
円

(iii) (i) + (ii) =()円

(2)
$$240 \times \frac{(\quad)}{(\quad)}=(\quad)$$
円

∴ 1,200+960+()=()円

(3) (1)÷(2)=③()

手順 1

各種データを整理します。

販売・生産データ(20×2年4月～20×3年2月)

製 品		単価等の把握	
初	販売	売上	②()
()	()	売原	③600
生産	()	差果	—
()	末	販管費	④60
()	()	変	20,000円/月
		固	

手順 2

求めた操業度差異を問題資料中の損益計算書に記入し、税引前営業利益を算定します。〔問1〕

手順 3

問題資料に所与の条件を考慮し、要求されている解答を導き出します。

1. 損益計算書を作成し、税引前営業利益を算定します。〔問2〕

3月の生産・販売:80千個・80千個

売上	()		
売原	()	+()千円	⑤(生産:90千個)
差果	△()	→	△()千円(不利)
総利	()		
販管費	()		
変	()		
固	20,000		
営利	()		

2. 3月の最大生産量を求め、そのときの税引前営業利益を算定します。〔問3〕

3月		販売
初	()	
生産	()	80
70～145	()	
()	末	
()	50～215	
()	()	

3. 3月の最低生産量および翌年度の最大生産量を求めます。〔問4〕

3月		販売	20×3年度
初	()	初	()
生産	()	生産	()
70～145	()	(70～145)×12	
()	末	()	末
()	50～215	()	50～215
()	()	()	()

売上	()
売原	()
差果	()
総利	()
販管費	()
変	()
固	240,000
営利	()

手順 4

直接標準原価計算方式による損益計算書を作成します。〔問5〕

売上	()
売原(変)	()
販(変)	()
貢利	()
固	()
製	()
販管費	240,000
営利	()

手順 5

改訂後の損益計算書を作成します。〔問6〕

改訂後の原価標準	
変	200
固	()
計	()円/個
売上	()
売原	()
差果	() ; 操業度差果
()	() ; 原価標準改訂差果
総利	()
販管費	()
変	()
固	240,000
営利	()

合格アシストノート

手順 1 計画販売量から製品・原材料・買掛金・売掛金の月末の在庫量・金額を計算します。

販売 (Sales)

5月 (個)	6月	7月	8月
月初			
販売			
40,000			
月末			

生産 (Production)

5月	6月	7月	8月
月初			
消費			
35,000			
月末			

消費 (Consumption)

5月 (kg)	6月	7月
月初		
消費		
38,000		
月末		

購買 (Purchase)

5月	6月	7月
月初		
購買		
39,000		
月末		

回収 (Recovery)

5月 (千円)	6月
月初	
回収	
135,000	
増加	
月末	

Callout Box:

原材料の買掛金購入額

$$= (\quad) \text{kg} \times 500 \text{円/kg} \times 50\%$$

$$= (\quad) \text{千円}$$

手順2 予定損益計算書の営業利益までと予定貸借対照表の判明する部分をうめましょう。

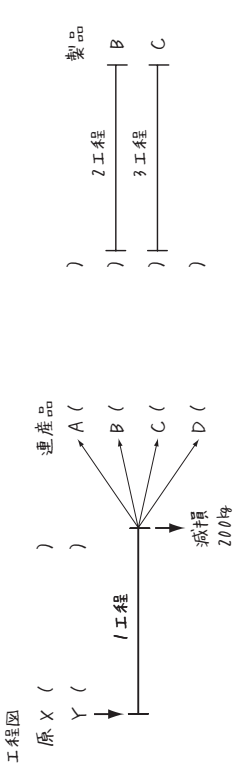
合格アシストノート

手順 3 現金の収支計算表から借入金と支払利息を計算します。(単位: 千円)

	5月	6月
月初	50,180	
現金売上		
売掛回収		
収入計		
現金仕入		
買掛支払		
変動費計		
固定費計		
土地		
支払利息		
支出計		
差引		
借入・返済		
月末		

手順 1

連結原価を算定し、第2・第3工程および製品のボックス図を作成します。ボックス図は後の問題でも同じものを使うので一回書けば十分です。



連結原価の算定

原料 X	()
原料 Y	()
加工	()
副産	(△)
連原	()

手順 2

物量基準：重量に基づいて連結原価を配賦します。

重量		原価額
A	()	()
B	()	()
C	()	()
連原	()	()

第2		B
初	完	売原
当	末	末

第3		C
初	完	売原
当	末	末

手順 3

見積正味実現可能価額基準：正常市価に基づいて連結原価を配賦します。

正価		配賦率	配賦額
A	()		()
B	()		()
C	()		()
連原	()		()

手順 4

売上総利益を一致させる方法はP / Lを書くとき早くて正確です。

A		B	C	合計
売上	()	()	()	()
連原	()	()	()	()
個別	0	()	()	()
売利	()	()	()	()
利率	()	()	()	()

手順 1

問題の資料の横に矢印や○を書いて各生産品がどの工程にあるか把握し、月初、月末、当月投入、完成に分類して投入量を把握しましょう。

X	A	I	外注	繰取	Z	完成
当 月 末	()k9	()h	()個	()h	()h	()個
Y	A	I	外注	Z	完成	
当 月 末	()k9	()h	()個	()h	()h	()個

手順 2

XとYの生産品の仕掛品勘定を作成し、合算させて、答案の仕掛品勘定を作成します。(単位：円)

X			Y		
当 月	1,948,000	完 成 ()	当 月	3,049,500	完 成 ()
②900 直材 ()		直材 ()			直材 ()
②1,000 労1 ()		労1 ()			労1 ()
②1,500 段取 ()		段取 ()			労2 ()
②1,500 労2 ()		労2 ()			直経 ()
②500 直経 ()		直経 ()			直経 ()
②2,000 製間 ()		製間 ()			製間 ()
合計 ()		合計 ()			合計 ()

月初 300 1,850,000	販売 () ()
完成 () ()	月末 200 ()

	Y098	) = ()
直材	@ 900 × ()	)
筋 I	@ 1,000 × ()	) = ()
直経	@ 500 × ()	) = ()
筋 Z	@ 1,500 × ()	) = ()
製間	@ 2,000 × ()	) = ()
合計	()	)

月末：() ÷ 500 (個) × 200 (個) = ()

手順 3

総合原価計算を前提とした生産データの作成し、手順2で計算した仕掛品勘定の金額から完成品と月末仕掛品を計算します。(単位: 個)

月初 直材 加工 ()	完成 2,300
当月 直材 加工 ()	月末 直材 加工 ()

